

代表質問

将来人口と財政、生活環境の整備と
教育問題について問う！



やちまた21 加藤 弘

将来人口と財政について

問 国も地方も少子高齢化が進んでいるが、本市の将来人口の予測について伺う。

市長

近年の本市の人口動態は減少傾向にあり、この状況から、今回の第2次基本計画の策定を行うにあたっては、目標年次である5年後の平成27年の総人口を前回推計の8万2千人より少なく見込み、8万人と想定いたしました。

今後の本市における人口動態は、大規模開発等、特別な事情がない限り、大幅な伸びは期待できないことから、基本構想にあります平成37年の8万3千人の総人口については厳しい状況にあると捉えております。

問 構想として8万人という数字を掲げているが、この実現させるためには、どのようなことが必要と考えているのか伺う。

総務部長

各種の施策を着実に

進め、市民の不満とされているような要素を一つ一つ解消しながら住みよい街づく

りに努めていくということが必要だと考えております。

問 今後10年の八街経済の分析について伺う。

市長

本市の一般会計における財政の見通しにつきましては、平成22年度から平成26年度までの5年間の財政推計においては、約41億円の財源不足が見込まれております。このことは、歳入の伸びに多くを期待できない中、扶助費、公債費の増に加え、朝陽小学校の校舎改築事業をはじめとする公共施設の改修及び大池第三雨水幹線整備等の公共事業に多額の財政負担が必要となってくることによるものであります。

この財源不足については、財政調整基金をはじめとする各種基金の活用及び事務事業の見直し等により解消を図ることとし、収支の均衡が保たれると見込んでおります。

生活環境の整備について

問

今後の市営住宅のあり方について伺う。

市長

市営住宅の管理戸数は、平成22年3月末で449戸、入居戸数は374戸です。なお、建築後40年を経過している市営住宅につきましては、老朽化が著しいことから公募が行っておりません。今後の市営住宅のあり方につきましては、公営住宅再生マスタープランの見直しを行う中で、市営住宅の規模や民間賃貸住宅借上の活用方法など、時代のニーズに適応した施設の活用を幅広く検討していきたいと考えております。

問

水道石綿セメント管の布設替え計画と配水場更新計画について伺う。

市長

石綿セメント管の更新計画につきましては、平成6年度から毎年約1キロメートルを計画的に着手し、残りの総延長は、約50キロメートルであります。本事業は、有収率を向上させるための最優先すべき事業として取り組んでおります。配水場更新計画につきましては、建設後、約36年が経過し、老朽化が著しい複戸配水場2系電気設備の更

新工事を今年度から着手しました。既に発注済みのポンプ棟建築工事及び近く発注を控える場内連絡管改良工事につきましては、今年度末の完成を予定しております。

八街駅自由通路について

問

自由通路での政治活動・選挙活動について伺う。

市長

選挙活動につきましては、公職選挙法第166条に「特定の建物及び施設における演説等の禁止」が定められており、市で管理している自由通路は、これに該当する施設となりますので、演説等はできないものと考えております。

教育問題について

問

基礎・基本的な学力の定着について伺う。

教育長

本市では、基礎的・基本的な学力の定着のために、「学力向上プロジェクト事業」、「八街市基礎学力調査」の実施、小学校への「八街市学力向上推進員」の配置を

行っております。

八街市基礎学力調査ですが、この調査は今年度からはじめた事業です。小学校では国語と算数、中学校では国語、数学、英語について、1・2学期末に市内一斉に調査を実施いたします。この調査を実施することにより、本市の基礎学力の定着状況を調査するとともに、各小中学校が連携協力して授業改善を図るための基礎資料といたします。

問

基礎学力調査の結果が出ているのか、また調査結果を公表している考えはあるのか伺う。

教育次長

今年度、第1回目の調査では、小学校では8割、中学校では6割の到達度でした。各学校におきましては、全員が定着するまで、夏期休業前等に繰り返し学習指導を行ったところです。結果については、市全体の各教科の到達度を各学校に公表し、各学校では、児童・生徒に対する基礎的、基本的な学習内容の確実な定着を図るための資料として、今後の授業に役立てていきたいと考えております。